BEST AVAILABLE COPY

29 日本国特許庁(JP)

① 特許出願公開

◎公開特許公報(A)

昭61 - 13374

@Int_Cl_4

戲別記号 广内整理番号

❷公開 昭和61年(1986)1月21日

G 06 F 15/62

6619-5B

每公開 附和01平(1900)1月21日

客査請求 未請求、発明の数.1 (全10頁)

◎発明の名称 画像診断装置

②特 願 昭59-133794

❷出 顧 昭59(1984)6月28日

の発明者 望良 伸 → 大田原市下石上1385番の1 株式会社東芝那須工場内

创出 顯 人 株 式 会 社 東 芝 川崎市幸区堀川町72番地

⑩代 理 人 弁理士 鈴江 武彦 外2名

明知中國

1. 羟明の名称

西撒診斯茲因

2. 特許顕求の範囲

- 2. 発明の詳報な説明

(発明の技術分野)

本発明は、血管、気管、消化器等の長尺状の表示対象を内視機的に菌及表示する面像診断装置に関する。

(発明の技術的背景とその問題)

X線診断技費、核医学診断装置、超音波診断 複数、X線CTスキャナ技量等の発達は患者の総 合的な磁像診断の診断排度の向上をもたらしてい る。また、出気共鳴現象を用いた 世気共鳴イメー シング装室の出現により所望の角度の断面像も思 影できるようになり、一層の診断精度の向上を固 ることが可能になった。

このような血管の所望の分枝方向に断面像が 追っていくように表示される桜園は現在のところ

35局8361- 13374(2)

存在せず、診断効率の向上のためにもその出現が、 いく望まれている。

(発明の目的)

本発明は上記事情に高いてなされたもので、その目的とするところは、被技体の血管、気管、消化器等の長尺状の表示対象を内摂反的に顕微表示することが可能な函数診解装置を提供することにある。

(発明の概要)

 としている.

(発明の実施例)

以下、本発明による関係を新載度を図面に示すー実施例に従い説明する。

. 上記藤優データ収集部1及び函数データ作成 部2はその詳細が第2因に示すような構成となっ

ている。即ち、11は風気共成イメージング技の 等の撮影システムである。12は観影システムである。12は観影システムである。12は観影システムであるの所国像の再構成、有処理を行なったとにより後述するような内視鏡の 変を行なっことにより後述するような内視鏡の 変を投表示されるべく新しく断面像を生成し、 が関係中に現われている1つの血管だけが現われた ののして選定し、その1つの血管だけが現われた の面像を生成する。

13は競影システム11からの直接の断面像及び、顕像再構成処理装置12からの断面機が格納される記憶装置である。

1 4 は、この記憶を設了 1 3 に記憶されている 断面数を表示するディスプレイである。

15はディスプレイ14 応表示された断面像 に現われた表示対象の内で1つの表示対象(血管) を指定するコンソール装置である。

16はコンソール装置15によりディスプレイ装置14に表示された所面像における表示対象として例えば1本の血管が指定されたとすると、その指定された出きの適度情報を顕顕する認識技

置である。

又、この血管ベクトル検出装置17では、表示対象の血管が太い場合は、認識装置16により血管内領域と思われる譲度の部分を2個化又は組分化のバターン認識を行なうことで、容易に上記指定された血管の仲長方向を決定することができ

18は血管ベクトル検出装置17により検出された各断面盤における上記指定の血管の方向ベクトルに基き、数学的に上記血管の垂直断面座板を伸出する血管ベクトル垂直断面検出装置であり、

特局昭61-13374(3)

各断面数に対応した垂直断面座像が記憶装置13 ! 込まれる。

19は上記点世の垂直所面座はが拝出された 各所遺骸に、質散番号を設定する面散番号カウン タである。

20は留食番号カウンタ19からの設定函像番号を、面象再供成的運転配12で生成された所面像に付す面像番号数型割卸装置である。

2 1 は記憶接度 1 3 に記憶されている所質数を断質変換して上記血管の方向ベクトルに対応した所面強を生成する面強変換装置であり、この函数変換装置 2 1 からの変換所面像は面強再構成処理装置 1 2 に与えられる。

次に上記様成のデータ収集部1及びデータ作成部2により面散データペースを生成する動作について第3回を参照して説明する。即ち、質量デン 収集部1の類影システム11により第3回 (a)に示すように血管31を断回32で提影すると、第3回(b)に示すように血管31の分歧により3本の血管33.34.35を含んだ断面

また、血管36の曲がった先の部分では、断面像43を視点とし、この断面像43から、血管ペクトル検出装置17により検出された血管ペクトル44を各断面象角に順に迫って行き、この血

哲ベクトル44の方向に位置する数枚の販面数4 ・5~47が得られる。そして、曲がった血管36 の断面数38,40~43,45~47及び血管 ベクトル39,44に装き直接再構成処理装置1 2により第3因(8)に示すような血管36の内 型を内視鏡的に表示した面盤を得ることができる。

. 即ち、主幹の血管 5 0 の断面像 5 1 ~ 5 5 に対し、 直盤 番号 1 ~ 1 0 0 2 ~ 1 0 0 6 が付され、分枝の血管 5 0 A は断面像 5 3 ; 直数 番号 1 ~ 1 0 0 4 の以降で分枝しているので、 首数 番号 1 4 1 桁上位が付されて断面像 5 6 ~ 5 8 に対して 面数 番号 1 ~ 1 1 0 0 5 ~ 1 1 0 0 7 となっている。

・次に西陸データ表示部3の詳報な格皮について第5回を参照して説明する。即ち、61は例えば第4回に示す表示対象として血管の断面像の面像データベースが記憶されている研究ディスク又は光ディスク等の記憶装置である。

62は国教番号 | をインデックスとし、このインデックスに基さ、後述するディスプレイ 64 に表示されている断面級の前後の断面像を後述するイメージメモリ群 63 にデータ転送する、所買、"先狭み"を行なう面象番号管理制製装置である。

63は上記先読みされた断面機夫々を記憶する所定の記憶容量を有したイメージメモリ群であ

64はイメーシメモリ群63からの各断面像を、面風番号割即該置62から与えられる次に表示すべき画盤番号(を示した制制信号に基き表示するディスプレイである。ここで、イメージメモリ群63は詳熱成されているので、上記"先抜み"における面極データの検索及び画像データの転送に費やしてしまう時間を補うことができ、折者が

特局昭61- 13374(4)

まするコンソール65により表示したい方向を 指定すれば、それに対応する函数を記憶したイメ ージメモリは、後述する表示イメージメモリ切換 え割り改置66により切換えることができ、ディ スプレイ64上には高速に函数が次々に表示でき、 よって動的な表示が可能となる。

65はキーボード、ジョイスティック、トラックボール等よりなるコンソールであり、ディスプレイ 64 に表示された血管の断面操が、分岐している部分に差掛かったときに、表示したい分枝方向を上記画盤番号 1 のインデックスの指定により行なうものである。

6 6 はコンソール 6 5 からのインデックス指定に基さイメーシメモリ 6 3 内の断面 職を切換え 制御する表示イメーシメモリ切扱え制御装置であ

上記において、先該みをする面扱の改は、国 策 番号 勘理 制 脚 鼓 製 6 2 を介して 行われるデータ 検 索、データ 転送に受する時間と、表示イメージ メモリ 切 終え 制 御 装 製 6 6 を介 して 行われるイメ ーシメモリ 6 3 の画像切換えに摂する時間との関係により決定される。 .

また、コンソール65の操作では、改めて方向入力(函数表示したい分枝方向)が入力されない場合は、現在表示されている新面数の方向の函数が次々と表示されることになる。更に、画数表示の停止、逆進行等は改めてコンソール65から入力操作することにより実行されるものとする。

ここで、上記画像の逆進行表示を可能とする ためにイメージメモリ61は以下の如く容量設定されている。即ち、先読み枚数の面数の分の記憶容量と、前表示される画数の分の記憶容量(上記先読み分と四容量である)とを有しているものと

次ぎに、第5回に示す画像データ表示部により、第4回に示す画像データペースをアクセスするためのインデックスの一例について第6回及び 第7回を参照して説明する。

即ち、第4回における面象番号 I = 1004 (販面像51)に注目すると、これをアクセスす

るインデックスは、第6回に示すように I = 1004のインデックスの先限アドレス、つまり I = 1004へのポインタ71と、手前の断配数52 (資散番号 I = 1003)のインデックスへのポインタ72と、この断面数52の函数データが格納されているディスク領域74へのポインタ73とを有している。

分岐している部分の断距像5 3 (医医番号1-1004)のインデックスは、次ぎに表示される百像である断面像5 4 (画像番号1-1005)のインデックスへのポインタ7 5 と、断面像5 6 (百像番号1-1005)のインデックスへのポインタ7 6 と、以前に表示される断面像5 2 (面像番号1-1003)のインデックスへのポインタ7 6 と、この断面像5 3 の面像データが格納されているディスク領域7 9 へのポインタ7 8 とを有している。

以下周接にして断面象54のインデックスはポインタ80,81,82を有し、新面像56のインデックスはポインタ84.85,86を有し

ている。ここで 8 3 , 8 7 は、ポインタ 8 2 . 8 6に対するディスク領域である。

また、分岐する部分に関しては、第7回に示すようなインデックスのポインタを有したものであってもよい。以上の様なインデックスに基いて上記質量データペースのアクセスがなされ、第5回のディスプレイ64に資速表示される。

特際項61- 13374(6)

こで、データ転送に要する時間は、イメージメモ 33A1~63A8切換えに要する時間の2値 であるとする。つまり、先読みする面景の枚数は 2枚である。

イメージメモリ 6 3 A 3 に 名的されている 函 数 5 2 (函数 5 月 1 - 1003) がデイスプレイ 6 4 に 表示されていて、そして、ごこで 面景を 1 を 2 切り 数えがなる 2 によりメモリ切 数えがなる 3 A 4 に 格納されている 3 (面を 5 月 1 - 1003) は 夫々、上述した 逆 準 行に 婚 えて イメージメモリ 6 3 A 2、6 3 A 3 に 名納しておく

・・ イメージメモリ 6 3 A 4 に格納されている質 後 5 3 (質像番号 I ー 1 0 0 4) がデイスプレイ 6 4 に表示されているときに、既に百後 5 4 (函 後番号 I ー 1 0 0 5)、質像 5 6 (質像番号 I ー 1 1 0 0 5) が夫々イメージメモリ 6 3 A 5 . 6 3 A 6 にに先 抜 み されて 8 り 、 次 ぎ に 、イメージ . メモリ 6 3 A 6 . 6 3 A 7 夫々に 格納されて いる 面散 5 5 (図 数 番 月 1 - 1 0 0 6) 、 面散 5 7 (函数 番 月 1 - 1 1 0 0 6) がデータ 転送される。

この状態でイメーシメモリ群63には第4回における主幹の血管50と、分岐の血管50人との面像が格納されていて、指者がコンソール65で上記分岐の血管50人を面像表示する旨の指令を与えない限りは、現在表示されている主幹の血管50の面換、即5、メージメモリ63A5に格納されている面換54(面像番号1~1005)が表示イメーシメモリ切換えば弾液量66によりであるでは送され、ディスプレイ64に表示される。

また、祈者がコンソール65で上記分枝の血管50Aを顕微表示する目の語令を与えると、現在表示されている主幹の血管50から分枝して、分枝の血管50Aの面級、即ち、メージメモリ63A6に協納されている面数56(面数番号Iー11005)が表示イメージメモリ切扱え刺蜘技

買66によりデータ転送され、デイスプレイ64 に表示される。

以下、回接にして報者のコンソール65の表示指令操作により、表示イメージメモリ切換え刻製質度66がイメージメモリ群63のメモリ切換えを行ない、その直像データをデータ転送して上記報者が所望する方向の質量がデイスプレイ・64表示される。

次ぎに、上記の如く構成さた本変無例の作用について説明する。即ち、第1回に示す画像データ収集部1では、第2回の構成により、MRイメージング装置等の概形システム11によって、別えば第4回に示すような主幹の血質50及び分段の血管50人よりなる血管系の断質を多なでは上記を変更を移り、これに進いて所定のインデックスが設定された画像データベースが生成され、記憶を買13に格格される。

百条データ表示が3では、第5回に示す構成 により、桁者がコンソール65により、ディスプ レイ64に表示したい画像(配像装置13に格的された第4回に示す主幹の血管50及び分枝の血管50Aよりなる血管系の断面像)の表示方向(主幹の血管50点いは、分枝の血管50A)を 協定する。

これにより、表示イメージメモリ切換え例的 被置66によりイメージメモリ群63のメモリ切 換えを行ない、イメージメモリ群63に上記してン デックスに基を記憶 61(第2図におけると で数配13に相当する)に格納されている 第4 四 に示す函数 号を付した 西数 データが 原次 設置 66 れ、上記表示イメージメモリ切換え 制御 技能 66 からの指令により 順次 データ 転送され、上記表示イメージ ステータ を の所望の函数 がディスプレイ 64 に 高速表示される。

だって、 新者の所望により、 血管内をあたか も胃固診断に用いられる内摂皮が建んでゆく如く 体々に奥の方に進んで行くような動的な安示効果 を与えることが可能となり、 また、 表示中に止め たいところで静止菌とすることもできる。 以上によれば、質問、食道等の疾患がを力視 で質徴を見ながら探ってゆく如く血管系を動的 に関係診断することが可能となり、血管の狭窄、 便器、闭塞等を起こしている保恵部を容易に発見 することができ、函数診断の診断制度の向上が固 られる。

。また、記憶装置 6 1 内に記憶された面像データペースの所望の画像の画像を裏を考に扱いて、ディ

スプレイ64 に表示されている面像(血管の断固像)の生体内における相対位置を、例えば第11 図に示すように3次元表示するようにしてもよい。

また、国象データ作成が2においては、断面 後をさらに質験再構成することをせず、単に1枚 ことの質象データとし、以降の函数データ表示的 における一度の高速表示を可能にしてもよい。

さらに、変数データ収集部1においては、選 気共鳴イメージング装置以外の腹影システムから 有られる変像として、X線診断装置、按医学診断

装置、母音放診断装置、X線CTスキャナ装置等による断面像、及びDR(デジタルラジオグラフィ)像、DF(デジタルフルオログラフィ)像を用いてもよい。

上記においては血管を表示対象としたが、反 尺状のものであればこれに限定されるものではない。

本 発明は上記以外に本発明の 要旨を造脱しない い 範囲で 種々変形して実施できるものである。 (発明の効果)

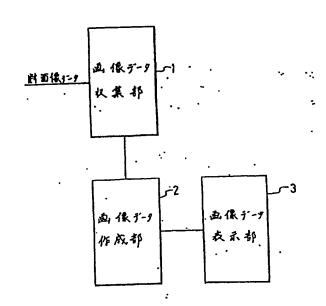
 とから構成したので、被検体の血管、気管、消化 器等の長尺状の表示対象を内視鏡的に函量表示す ることが可能な函数診断技費を提供することがで きる。

4、.図面の簡単な説明

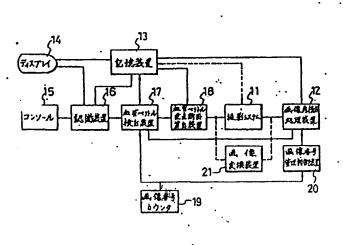
斑1 図

1 … 頭散データの表 2 … 面像 野子 クタを表 3 … 面像 データを表 2 … 面像 野子 のの 数 で 2 … 面像 野子 のの 数 で 2 … 面像 野 で 2 … 記 を 2 … に 3 … に 3

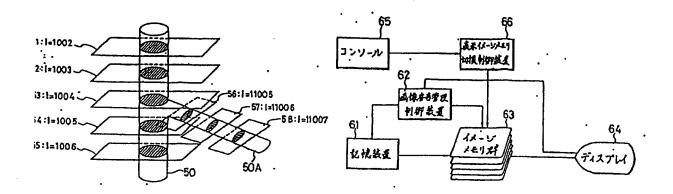
出頭人代理人 弁理士 鈴紅武彦



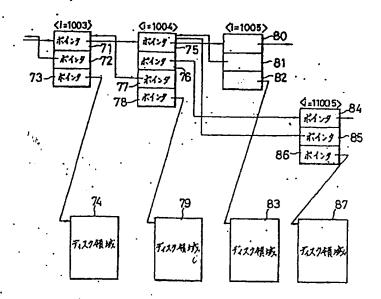
邓 2 图

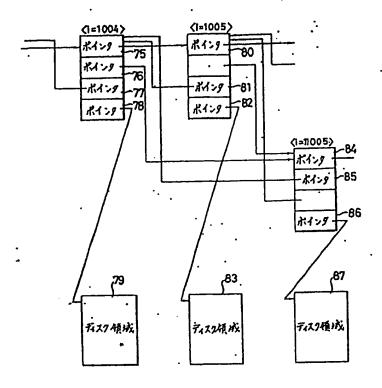


-445-

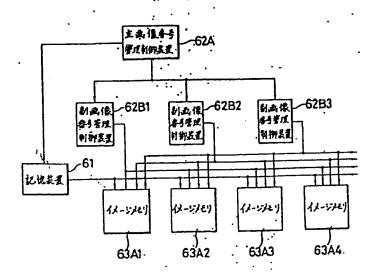


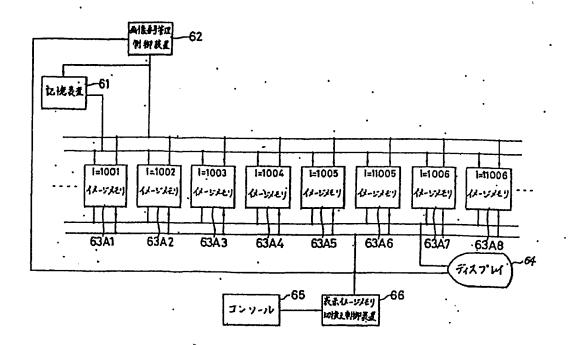
夢 6 図



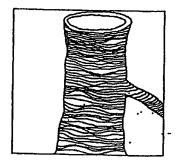


第 8 図

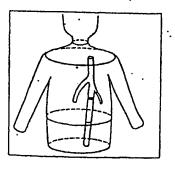




第 10 図



第 11 図



-448-

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:	
	☐ BLACK BORDERS
	☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
	☐ FADED TEXT OR DRAWING
	☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
C	☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
	COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
	GRAY SCALE DOCUMENTS
	☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
	☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.

THIS PAGE BLANK (USPTO)